お仕事にチャレンジしよう

～公民館・学校・地域との連携事業～

教科・領域　総合的な学習の時間　　周南市立湯野小学校５・６学年

キャリア教育の観点

この取組は、公民館・地域と連携した職場体験活動を通して、ふるさと湯野で働く人々の思いや願いに迫ることにより、働くことの意味や将来の夢づくりに目を向けさせる活動です。　**【キャリアプランニング能力】**

お仕事にチャレンジのきっかけ

この取組は今年度で１３年目となる湯野公民館との連携事業である。学校完全週５日制の実施を翌年に控えた平成１３年に、①児童への教育、②教育改革に対する地域住民の正しい理解と認識、③学校・地域・公民館の連携の強化を目的として始められた。現在もその基本的な考え方を受け継ぎつつ、①総合的な学習の時間の実践、②地域の教育力の活性化を目的とし、５・６年生が職場体験をする事業として続いている。児童を受け入れてくださる地域の事業所は、児童数や湯野地区の事業所の減少により、今年度は７事業所を５事業所に減らして実施した。

○児童にとってのねらい
- 奉仕の心の育成　・協調性
- 忍耐力　・職業経験、人生経験
- コミュニケーション能力の育成
- 自立心の育成　・金銭感覚の育成
- 社会の仕組みの認識
- 就業意識の醸成

○地域、学校、事業所、公民館にとってのねらい
- 児童の教育
- 学校教育における児童の教育の現状を理解する
- 地域で育てることの必要性と重要性を理解する
- 結びつきの強化
- 地域貢献、キャリア教育

○受け入れ事業所（７）
①病院　②老人保健施設
③老人デイサービスセンター
④観光施設（県指定文化財）
⑤個人農園　⑥美容院
⑦国民宿舎

→

○今年度受け入れ事業所（５）
①病院
②老人保健施設
③老人デイサービスセンター
④国民宿舎
⑤幼稚園

役割分担

この取組は、次のように公民館・小学校・事業所・地域の明確な役割分担を、それぞれ

が責任をもって果たすことにより長く継続できてきた。

○公民館
・事業計画の作成
・受入事業所の手配
・見守りボランティアの募集
・案内文書、礼状などの発送
・体験日の全体の進行管理
・予算管理

○小学校
・学習計画
・事業所との体験内容打合せ
・体験日の児童管理
・事前、事後の指導
・発表会の開催
・学校だより等での周知
・見守りボランティアの募集

○事業所
・児童の体験内容の計画
・児童受け入れ、指導
・受け入れの感想、意見の提出

○見守りボランティア（地域協力者）
・打ち合わせにて各自の分担把握　・体験日に児童の安全配慮、レポート作成
・ビデオ撮影、編集及び DVD 作成

お仕事にチャレンジの実際

○お仕事にチャレンジの手順
1　事業打合せ（於　公民館）
2　事業所へのあいさつ（於　各事業所）
3　見守りボランティア打合せ（於　公民館）
4　チャレンジ１回目（於　各事業所）
5　チャレンジ２回目（於　各事業所）
6　発表会（於　小学校）

児童が実際に仕事にチャレンジするまでには、まず公民館と小学校が事前の打合せを繰り返した。小学校では、６年生が昨年度体験した内容を５年生に伝えた。多様な体験をさせるために、昨年度体験した事業所にならないような児童の割り振りを行った。

今年度は５・６年生１６人の複式学級で取り組んだので、担任が一人しかいないが、地域の見守りボランティアの方々に各事業所へ同行してもらうことで、児童の様子を見守っていただくことができ、大変助かっている。事業所への事前のあいさつ、２回のチャレンジ全てにおいて、見守りボランティアの方々にお世話になった。

お仕事に出発

事前のあいさつで各事業所から仕事の内容を教えていただいた後、児童は必要な準備をした。例えば、老人デイサービスセンターの仕事では、行事の企画の一環としてリコーダーの練習をしたり、紙芝居の練習をしたりした。幼稚園の仕事では、絵本の読み聞かせの練習をしたり、ゲームの賞状作りをしたりしていた。

１回目のチャレンジでは、緊張感と戸惑いもある児童も多い。担任・校長・公民館主事が各事業所を回り、体験の内容を写真等で記録していく。また、担任と校長は児童を管理し指導を行う。ボランティアの方々には、基本的に見守る姿勢で児童の様子を観察をしてもらう。各事業所を回る担任も校長も児童の断片的な様子しか分からないが、児童とともに行動し、ずっと観察している見守りボランティアのレポートにより、各事業所での児童の様子を具体的に知ることができる。その観察レ

ポートを、担任が２回目のチャレンジに生かすように反映させてきた。２回目のチャレンジでは、１回目の反省を生かし、児童の手際もよくなり表情も豊かになってくる。２回目には例外なく変化している様子や仕事が上達していることが分かる。

発表会

２回目チャレンジの後は、発表会に向けて学習のまとめを行った。何をどのような形で発表するかは児童に任せ、小道具を使った劇仕立てのもの、レポーターによる実況中継風のもの、パワーポイントを使ったものなど様々で、工夫を凝らした発表が行われた。

発表会は、来年度体験する４年生、各事業所、見守りボランティア、保護者、関係者、地域の方々の参加によって行われ、地域の人にとって楽しみな恒例行事となっている。

考察 ・ 課題

児童の目を通して発表会で描写される仕事は、ただ観察しただけでなく、体験に基づき思考を重ねたと思われる表現もあり、職業体験は児童に少なからず影響を与えていることが分かる。この取組によって児童は、働くことの厳しさや難しさ、苦労の一端を知ることができている。働いて育ててくれている親への感謝、あいさつ等のコミュニケーションがいかに大切かが理解できたと、発表会では必ず聞くことができる。そのことから、働くことの意義や将来の職業について考える場となってきたと確信している。

見守りボランティアは、同じ地域に住んでいても、今まで知らなかった事業所の内容を知ることができ、児童だけでなく、地域住民にとってもこの「お仕事にチャレンジ」にかかわることが、ふるさとを見つめ直す機会にもなっているのではないかと思える。

課題としては、２回のチャレンジ、計６時間程度の体験で果たして適当なのかということである。また、「お仕事にチャレンジ」を継続的に受け入れてくれる事業所の確保や新規事業所の開拓を、公民館だけに任せるのではなく、協力しながら行っていく必要があると考えている。

今後も公民館や事業所と連携し、形骸化することなくこの事業を継続していきたいと思う。